

ホームページアドレス
http://www.city.shirakawa.fukushima.jp/
☎=問い合わせ先
内=内線番号
◇本庁舎 八幡小路7-1 ☎②1111/Fax⑦2577
◇表郷庁舎 表郷金山字長者久保2 ☎③2111/Fax②2234
◇大信庁舎 大信増見字北田58 ☎④2111/Fax④2409
◇東庁舎 東釜子字殿田表50 ☎④2111/Fax④3584

募集

中山義秀記念作文 コンクール

自分の思いや考えを作文にしてみませんか。
●**応募対象** 市内に在住で、市外の学校に通っている小・中学生（市内の小・中学生には、学校を通して募集します）
●**応募期限** 1月16日（金）まで
※募集要項は市立図書館りぶらんサービスデスクにあります。
●**応募・問い合わせ先** 市立

案内

アナビースポーツ プラザオープン

カタールフレンド基金事業を活用し建設した「アナビースポーツプラザ」の完成などを記念し、オープニングセレモニーを開催します。 ※アナビーは、アラビア語でカタールの国旗などに使われている色を表しています。
●**日時** 12月14日（日）/午前11時～午後5時
●**会場** 総合運動公園（北中川原）
●**内容** オープニングセレモニー、サッカー元日本代表選手によるトークショーおよびサッカー教室、ギネスに挑戦けん玉イベントなど
●**本庁舎生涯学習スポーツ課** 内2386

工業統計調査

経済産業省では、12月から1月にかけて「工業統計調査」

を実施します。

この調査は、12月31日現在の国内における工業（製造業）の実態を明らかにすることを目的としています。調査の結果は、産業政策や中小企業政策など、国や地方公共団体の行政施策の基礎資料となるほか、経済白書や中小企業白書などの経済分析と各種経済指標に利用されます。
12月中旬から、統計調査員が対象事業所を訪問します。調査への協力をお願いします。
●**本庁舎企画政策課** 内2325

要介護認定者の障がい者控除・医療費控除

65歳以上の介護保険要介護認定者で、一定の要件を満たす方は、「障害者控除対象者認定書」の交付を受けることで、所得申告の際に障がい者または特別障がい者控除が受けられます。
●**主な要件** 65歳以上の介護保険要介護認定を受けている方（身体障がい者手帳または療育手帳をお持ちの方は、申

告時に手帳を提示することで控除が受けられます）
なお、これまでに障がい者控除対象者の認定を受けた方で、状態に変化がない場合は、認定書を引き続き使用することができます。

また、新規の方で、平成26年分の所得申告に使用する場合は、平成26年12月31日の現況をもとに判定しますので、認定書の交付は1月以降となります。
《おむつ代の医療費控除》
おむつ代の医療費控除を受けるのが2年目以降の介護保険要介護認定者で、一定の要件を満たす方は、医師が発行する「おむつ使用証明書」の代わりに、市が発行する「認定書」で医療費控除が受けられます。介護保険被保険者証を持参のうえ、申請してください。

なお、事務手続き上、当日交付できない場合がありますので、ご了承ください。
●**本庁舎高齢福祉課** 内2738 / **各庁舎地域振興課** 表郷 ☎②114 大信 ☎④2114 東 ☎④2116

臨時納税窓口の開設

市税の納付はお済みですか。市では、臨時の納税窓口を開設しますのでご利用ください。また、特別な事情で納税が困難な方は相談をお受けいただけます。納税が困難なことを説明できる書類などを持参のうえ、お越しください。
●**日時** 12月14日（日）～20日（土）
/ 午前8時30分～午後8時
※土・日曜日は午前9時から午後4時まで
●**会場** 本庁舎収税課（1階）
●**本庁舎収税課** 内2123

特定疾患見舞金

特定疾患患者と慢性透析療法を受けている方に、年間3

年末年始の交通事故防止
県民総ぐるみ運動
12月10日（水）～1月7日（水）
《運動スローガン》
知らせよう 早めのライト あなたから
《運動の基本》
高齢者の交通事故防止
《運動の重点》
①夕暮れ時と夜間の交通事故防止
②すべての座席のシートベルトとチャイルドシートの正しい着用の徹底
③飲酒運転など悪質・危険な運転の根絶
●**本庁舎生活環境課** 内2162

農業委員選挙人名簿への 掲載申請書の提出

万円の見舞金が支給されます。今年度、まだ申請を行っていない方は、印鑑・特定疾患医療等の受給者証（平成26年4月1日現在での資格が確認できるもの）・本人または保護者名義の預金通帳を、本庁舎社会福祉課または各庁舎地域振興課へお持ちください。
●**申請期限** 12月26日（金）まで
●**本庁舎社会福祉課** 内2714

農業委員会では、農業委員選挙人名簿の掲載申請書を配付します。この名簿に登録されていないと、農業委員の選挙などができなくなりますので、必ず提出してください。

●**該当者** ①市内に住所を有する平成7年3月31日以前に生まれた20歳以上の方
②10アール以上耕作している方、または同居している家族の方で、年間60日以上農業に従事している方
●**提出期限** 1月9日（金）まで
●**農業委員会事務局** 内2242

軽自動車税の税率改正

平成27年度から軽自動車税の税率が引き上げられます。軽自動車税は、毎年4月1日現在で車両を所有している場合に年税額が課税されます。廃車や他人に譲渡するなど、登録内容に変更がある場合は3月末までに手続きをしてください。

区分	標準税率		重課税率	備考		
	現行	改正後				
原動機付自転車	50cc以下	1,000円	2,000円	平成27年度から適用されます。		
	50cc超90cc以下	1,200円	2,000円			
	90cc超125cc以下	1,600円	2,400円			
	ミニカー	2,500円	3,700円			
軽二輪（125cc超250cc以下）	2,400円	3,600円				
二輪の小型自動車（250cc超）	4,000円	6,000円				
小型特殊自動車	農耕作業用	1,600円	2,400円			
	その他	4,700円	5,900円			
雪上車	2,400円	3,600円				
三輪	3,100円	3,900円	4,600円		改正後の標準税率は、平成27年4月1日以後に最初の新規検査（車両番号の指定を受けたことのない軽自動車を使用するときを受ける検査）を受けたものから適用されます。 また重課税率は、最初の新規検査から13年を経過したものに平成28年度から適用されます。	
四輪	乗用	自家用	7,200円	10,800円		12,900円
		営業用	5,500円	6,900円		8,200円
	貨物	自家用	4,000円	5,000円		6,000円
		営業用	3,000円	3,800円		4,500円

●**本庁舎課税課** 内2127

案内

奨学資金・大学入 学一時金

「白河市奨学資金・大学入学一時金」の申請を、次により受け付けます。

《奨学資金貸与》

●資格 次のすべてに該当する方

- ①平成27年度に高等学校、高等専門学校、大学および専修学校に進学を希望している方
- ②市内に引き続き1年以上住所を有している方（進学を目的として市外に住所を移転している場合は、住所を移転するまで引き続き1年間以上市内に住所を有していた方）
- ③市内に在住し、独立の生計を営んでいる連帯保証人が2人いること（そのうち1人は保護者またはこれに代わる方）
- 貸与月額（無利息） ①高等学校・高等専門学校生 2万円
- ②専修学校生（専門課程で修業年限2年以上） 3万円

③大学生 4万円
《奨学資金給付（白河市ガソリン）》
バルしらかわ人奨学資金支給

●資格 次のすべてに該当する方

- ①平成27年4月に大学に進学する予定の方
- ②市内に3年以上住所を有している方
- ③品行方正で、学習意欲が高く、学業成績が特に優秀な方が困難な方
- ④経済的な理由で学資の負担が世帯に市税等の滞納がない方
- ⑤国または他の団体から給付型の奨学金を受けていない方
- 支給月額 ①文系学部在籍する学生 3万円
- ②理系学部在籍する学生 5万円
- 募集人数 各学部2人以内
- 《大学入学一時金貸与》
- 資格 次のすべてに該当する方
- ①平成27年4月に、大学へ進学を希望している生徒・学生の保護者
- ②市内に3年以上居住している方
- ③市内に在住し、独立の生計



平成27年 新春市民交歓会

希望に満ちた新年を迎えるにあたり、新春市民交歓会を開催します。

●日時 1月5日(月)／午後4時から(受付は午後3時30分から)

●会場 鹿島ガーデンヴィラ(北中川原)

※当日は、市役所本庁舎(午後3時30分発・商工会議所経由)、各庁舎(午後3時20分発)から会場までバスを運行しますので、ご利用ください。

●会費 2,000円
●申込方法 会費を添えて、12月22日(月)までに、お申し込みください。なお、当日会場でも申し込みができます。

●申し込み・問い合わせ先
本庁舎秘書広報課 ☎2111 内2371
各庁舎地域振興課 表郷 ☎2111 大信 ☎2111 東 ☎2111/白河商工会議所 ☎3101/各商工会 表郷 ☎3065 大信 ☎2070 東 ☎2779

を営んでいる連帯保証人が2人いること

●貸与額（無利息） 70万円以内 ※医師・歯科医師課程は100万円以内

《共通事項》

●申込期間 12月15日(月)～1月30日(金)

●申し込み・問い合わせ先

●本庁舎教育総務課 内2351/各庁舎教育振興課 表郷 ☎4782 大信 ☎463975 東 ☎3146

まちかど伝言板

中心市街地活性化事業

クリスマスミニコンサート

《IN THE WIND》

●日時 12月21日(日)／午後4時～5時

●会場 えきかふえSHIRAKAWA(郭内)

●入場料 無料

●福島県ミニコンサート実行委員会 遠藤 ☎090-1496-7610

立教志塾講演会

●日時 12月22日(月)／午後6時～7時

●会場 鹿島ガーデンヴィラ(北中川原)

●内容 ▼講演「上に立つ者の心構え」 ▼講師 渡邊五郎三郎氏

●入場料 無料

●(公財)立教志塾 ☎231427



『心の桃源郷』

白河市長
鈴木 和夫

中山義秀文学賞が今年で第20回を迎え、その節目を祝う催しが過日行われた。平成5年、旧大信村で義秀の功績を顕彰する文学館が開館。同じく、歴史時代小説を継承する作家の出現を期待し、文学賞は設けられた。

本文学賞には二つの特徴がある。まず歴史時代ものに限っていること。次に選考の仕方。応募作から有識者の審査を経て三作品に絞る。最終的に4人の著名な作家・評論家により公開の場で選考する。そのやりとりは実に興味深い。時代考証がなっていない。緻密な表現力に欠ける。粗削りだが将来性を感じる。何年か前、後にベストセラーになり映画化された作品があった。その作品は、映像をみるように分かりやすいが、文学性に乏しいとはねられた。審査委員と新進作家の真剣勝負の場で、会場に緊張感が漂う。

当初、この賞は作家の登龍門とされた。受賞者は、作家でやっていけるかどうか自信なかったがこれで覚悟が定まった。知識なら努力で埋められる。しかし、その先にあるものを埋められるか不安だったが、この賞が道を照らしてくれる灯りとなつたと文学賞に感謝する。受賞を機に力をつけ直木賞を獲得作家も出ている。回を重ね今は「ピリリと辛口の格調高い」賞として評価が高まっている。

義秀は、白河市大信下小屋で生まれ幼少を過ごす。いわき、二本松、郡山を転々とする。旧制安積中学から早稲田の文学部へ。ここで「師友」横光利一と出会い作家の道を志す。苦節16年芥川賞に選ばれ、野間文芸賞を得る。直木賞選考委員を20年務め、卓越した芸術家に与えられる日本芸術院賞の栄に輝く。

だがそこへの道のりは苦闘の連続。当時流行の左翼文学にはなじめない。若くして世に出た横光の才能に惹かれ、嫉妬する複雑な心情。結局、横光の新感覚派にも距離を置く。自分の文学を求めさまよう。さらに、子の死、妻の病と死、貧窮が襲う。暗闇を歩き続ける不安。酒に走り自棄の日々もあった。支えたのは、社会と格闘してきた父祖の血と荒ぶる魂。耐えながら心の内を見つめ、社会を見つめ、歴史を見つめた。ここから、時代に迎合しない、確固とした歴史的視点を持つ中山文学が生まれた。義秀は勝者より、自己の人生を生きてきた敗者の悲哀に焦点をあてた。「生きる人間一人ひとりそれぞれに人生の主役である」と。

義秀は幼な心に、定住できない生活に「渡り者」の寂しさを感じていた。これもあってか終生、故郷を懐かしんだ。「私の生まれ里を日籠屋敷というが、東から望めば入日がこの村の西の山に没するから、日籠の里と名づけられたのかもしれない。田野の果て、南山の裾を大川が流れている。隈戸川という」。情景がまざまざと浮かぶ。生地を世界で唯一の一番懐かしい天地、心やすらぐ桃源郷と記す。孤高の文士の心を癒したのは母なる山河だった。

全国市長会の企画で、地域にゆかりの作家の功績をたたえ、文化や都市の魅力の向上を目的に文学賞を創設している市長の座談会があった。宮沢賢治の花巻市、島崎藤村の小諸市、太宰治の三鷹市、そして中山義秀の白河市。わがまちの、文学者を誇りとし、その思想や精神をまちづくりや観光に結びつけようとしている。

前文化庁長官の近藤誠一さん。大震災の後小峰城の被災状況を視察された。その折、「当然文化財としての価値も大きい」と同時に城は白河市民の精神そのもの」と全面支援を約束してくださった。元はユネスコ大使やデンマーク大使を務めた外交官。外交の厳しさを重要性を知る人が、これからの外交には、軍事や経済以上に文化・芸術のソフトパワーが必要という。

文化はカルチャーの訳。カルチャーの語源は「耕す」。ここから心を耕すに通じ、文化へつながる。心を耕すことは、自分を耕し地域を耕すこと。文化はカネと暇のある人のぜいたく、との声もある。しかし、文化は心を豊かにし潤いを与えてくれる。感性が磨かれ、観光や新たな産業のヒントにもなる。自然観や繊細な美意識、人間観など先人の知恵を学べる。

私たちは近代化の旗のもと、物質的充足を優先するあまり、文化や芸術の力や日本の伝統文化を軽視してきたのではないか。義秀がたたえた「日本人の美しい情操」が失われようとしている。先月20人目の文学賞が決まった。今後とも、義秀の気高い心を受け継ぎ、数少ない地方発のこの文学賞を大事にし、文化の薫り高く誇れる白河にしたい。